カリフォルニア州立大学チコ校図書館訪問記

萩　原　泰　子　　（信州大学工学部図書館）

1．はじめに

平成 25 年 8 月 21 日から 9 月 23 日まで、信州大学の職員語学研修としてカリフォルニア州立大学チコ校 (Chico State) の附属語学学校に通い、世界各国から集まった学生と交流する機会を得た。滞在中、語学研修の空き時間を利用して同大学の図書館 Meriam Library を見学し、ライブラリアンと話すことができたので、本報告ではそれらを通して当館のサービスについて考えたことをまとめている。

2.　訪問先の概要

チコ市は、サンフランシスコから車で 3 時間ほどの農業が盛んな内陸部にあり、自然に囲まれた治安のよい都市である。Chico State の学生数は約 16,000 人と信州大学の 1.5 倍程度だが、博士課程がないため院生数は少なく、研究より教育に主眼がおかれている。そのため、今回の図書館訪問にあたっては、学生向けのサービス改善を主な目的として話を聞くことにした。

大学図書館の Meriam Library は、Chico State の 7 学部をサービス対象としている。図書館の建物は地上 4 階、地下には E ラーニングなどを担当する部署の Academic Technologies がある。1 階には、学生アルバイトが対応する貸出カウンターとパソコンルーム、2 階にはライブラリアンが対応するレファレンスカウンターがある。書架と閲覧スペースは、2 ～ 4 階にある。業務は閲覧サービス、レファレンス、特別コレクション、契約受入、と大きく 4 つの係に分けられており、日本との大きな違いは、職員の異動がないことである。係間の異動も基本的にはない。以下では、各係の業務に関連して、興味深いと感じたサービスを挙げながら考察する。

Chico State

Meriam Library

3. 授業用資料について

3-1. Textbook Alternative Project

Meriam Library では、Academic Technologies と協力して、学生の教科書代を減らすための取組みを行っている。概要は次のとおりである。

Textbook Alternative Project (TAP)

目的：教員に対し、オープンアクセスの資料や図書館の情報源を授業の資料として使うことを働きかけるためのプロジェクト。

背景：2012 年 11 月、大学が進める「Affordable Learning Solutions」（2010 年～）を受けてはじまった。背景としては、学生の平均教科書代が年 1,200 ドル（約 12 万円）と言われることから、高額な教科書の代わりに安価な学習資料を提供しようという考えがある。

活動：プロジェクト推進のため、教員から代替資料の案を募集する。2013 年春大会では、採用者に 600 ドルか iPad がプレゼントされ、8 名が賞金（賞品）を授与し、報告をした。

教科書から離れようという TAP のイメージ

3-2. 授業用資料の貸出 (Reserve Materials)

教員の指定があった教科書や参考書については特定の書架に配架し、短時間の貸出をしている。特徴的な点は、図書館所蔵の資料も一部あるものの、教員が持ちこむ資料が中心になっていることである。つまり、教員が学生のために教科書を図書館に預けているという感覚である。これは、アメリカの大学図書館では一般的なようで、担当者からも「学生が高い教科書を全部そろえるのは大変でしょ。」というコメントがあった。配架場所は貸出カウンターの内側で出納式にしている。授業を履修する学生が同時に利用できるよう、同じ資料が複数冊準備されており、教員の指定によって 2 時間か 24 時間借りられるようになっている。

これまで、教科書は学生の責任で購入するもの、という意識があったが、今回 2 つのサービスを知ったことで、それについて考え直すようになった。ただ、こうしたサービスを実現させるには、教員との連携が欠かせない。現在、附属図書館の新サービスとして、他大学でも行われている授業パスファイン

ダーの作成が検討されているが、教員が参加しやすい運用にすることで活発に利用されるものにできると考える。また、近年「学習支援」という言葉をよく耳にするが、TAP のように「教科書にかかるコストを下げる」という明確な目標を掲げることで、図書館外の大学関係者にも内容が伝わりやすく、具体的な行動につながりやすいと感じた。

4. レファレンス

4-1. サブジェクトライブラリアンによるレファレンス

サブジェクトライブラリアンはそれぞれの分野の蔵書構成に責任を持つ他、レファレンスも担当しており、学生は個別に検索指導を受けることができる。図書館のホームページには、どの分野をどのライブラリアンが担当しているかという写真入りの紹介があり、館内に各自個室かパーテーションで仕切られた適当な広さのスペースを持っているため、あらかじめ時間を調整して落着いて話をすることができるようになっている。

Meriam Library の
ライブラリアン紹介 HP
連絡先と担当分野が
明記されている

4-2. チャットレファレンス

アメリカではチャットによるレファレンスが一般的である。また、大学をこえてチャットレファレンスを行う Question Point というサービスもある。これには、全世界 1,000 以上の大学図書館が参加し、担当時間内に質問された場合は、自館他館を問わず回答するというものである。質問内容を見せてもらったところ、「この本はどこにあるのか？」「開館時間は？」などの簡単なものも多かった。

レファレンスについては、軽微なものと専門的なものとで扱いが違ってくるが、ホームページで図書館職員によるサポート体制があることを知らせたり、チャットによる気軽な質問ができる環境があることは、利用者の利便性を上げ、図書館の機能を周知することにつながると感じた。

5. 特別コレクションの授業への活用

地域資料を中心とした特別コレクションは、専任のライブラリアンが管理し、一部をオンライン公開

している。禁帯出の資料だが、学生に利用されるものも多い。地理の授業で古い地図が使われる他、ユニークな利用としては、チコ市の古い写真を今の風景と組合せて一つの作品にするという授業もある。今後は、それらの課題作品も目録化して保存していきたいとのことだった。所蔵資料によって、新たな独自のコレクションが生まれる流れができていた。

これまで埋もれていた資料でも利用者次第で様々な用途に展開していく可能性がある。電子資料が増える中で、図書館では発想を広げるための所蔵資料の管理や公開をしていくことも大切である。

6. 選書について

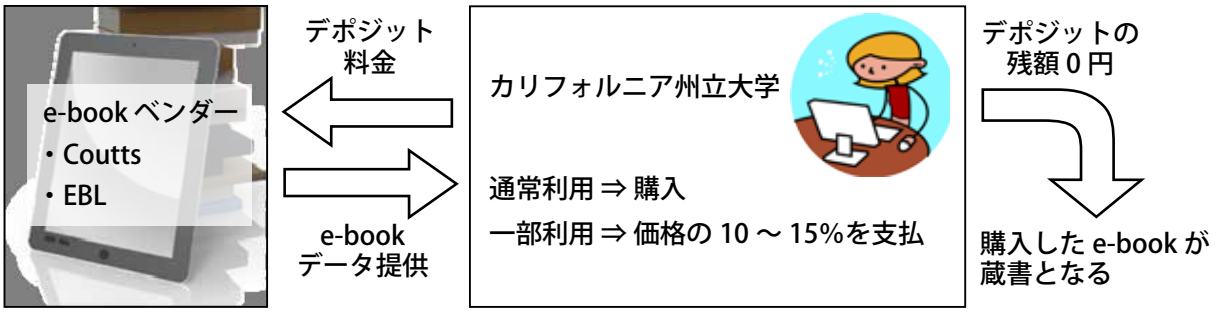
選書はおもに、アプルーバルプラン、PDA(Patron Driven Acquisition)、リクエストの３通りの方法で行っている。購入については、サブジェクトライブラリアンが担当分野の責任を持つ。学部の予算配分は、学生・教職員数の他、その分野の平均価格や利用頻度も考慮して計算される。ここでは、アプルーバルプランと PDA について触れたい。

6-1. アプルーバルプランを利用した選書

定期的な選書は、あらかじめ設定した分野の新刊リストがベンダー (YBP Library Serivices) から送られ、サブジェクトライブラリアンが選書の上、発注するという流れになっている。ベンダーとは、年間契約をしており、装備から目録作成まで委託している。

6-2. PDA

利用者主導の選書方法としてアメリカで普及しつつある PDA（e-book のデータを蔵書検索に登録し、利用されたものを購入する）を 2011 年秋にカリフォルニア州立大学全体で導入した。州立大同士での e-book 購入の重複を避けつつ選択肢の幅を広げられることが、大きなメリットと考えられている。



本学は、学部間での異動が定期的にあるため、サブジェクトライブラリアンという考えは成立しにくく、職員が選書の中心を担うのは難しい。そのかわり、教員に選書を依頼する前に候補リストを作成するという手順を追加してもよいかもしれない。教員の負担も減り、職員の意識も高まるというメリットが予想される。PDA については、日本の e-book の現状を考えると実現は難しいが、県内にキャンパス

が点在する信州大学では、有効に機能すると思われる。また選書のためには、読んで確認できることがやはり重要になるので、教員向けに見計らいやブックハンティングツアーを行うことも提案できるのではないかと考えている。

7. まとめ

Meriam Library でも予算や人員は年々減らされているようだったが、委託できる業務には手をかけず、各自が専門性を磨くことで効率のよい運営が行われている印象を受けた。しかし、日本では、職場組織や資料をとりまく環境が違う以上、アメリカの大学図書館で行われていることを直接取り入れるのは難しい。また言語の壁を考えれば、先進事例を持つ国内の図書館へ研修に行く方が、明確な改善策は得られるとも言える。それでは、海外の図書館で研修する利点は何なのだろうか。それは、「自分の当たり前や日本の当たり前が、本当に当たり前なのか再考するきっかけを得られる」ということだと今は考えている。「自分の当たり前」が変わったらどんなサービスが提供できるのか、「日本の当たり前」が変えられなくてもその中で改善できることはないのか、今回の訪問記では、そのような観点から現在の業務をふり返ってみた。

滞在先では、急な依頼にも関わらず快く対応していただいて、Meriam Library の方々には本当に感謝している。今後も機会があれば積極的に海外の図書館で学びたい。

参考文献

Lyons,L.E., Blosser,J. (2012). “An Analysis and Allocation System for Library Collections Budgets: The Comprehensive Allocation Process (CAP).” The Journal of Academic Librarianship, 38(5), 294–310.

Shepherda,J., Langston,M. (2013). “Shared patron driven acquisition of E-books in the California State University Library Consortium.” Library Collections, Acquisitions, and Technical Services, 37(1-2), 34-41.

林豊 (2012)「大学図書館に広がる電子書籍の Patron-Driven Acquisitions」カレントアウェアネス -E, 218, E1310